

# 分科会13

## 医療の場でリカバリーを育てるには

### ～当事者・看護師・作業療法士からの問いかけ～

- コーディネーター**：相澤和美（国際医療福祉大学・地域精神看護ケアねっと）  
大橋秀行（埼玉県立大学・NPO 法人POTA）  
川口敬之（北里大学・NPO 法人POTA）
- ファシリテーター**：加藤和貴（東京YMCA 医療福祉専門学校）  
川村弘子・佐々木理恵（WRAP ファシリテーター）  
田代誠（公益財団法人積善会曾我病院）  
永井優子（自治医科大学）  
松井洋子（医療法人社団自立会さいとうクリニック）  
水野高昌（文京学院大学）  
望月明広（公益財団法人横浜市総合保健医療財団横浜市神奈川区生活支援センター）  
吉田一子（国際医療福祉大学）

## I. 主旨

この分科会では、精神医療サービスをリカバリー志向に転換するために、「当事者と専門職が共にできること」について語り合いました。グループには様々な立場の参加者が集い、それ自体がリカバリー志向の協働作業となりました。当事者や元医療スタッフによる精神医療での体験についての話題提供を受け、グループでの語り合いは自然と盛り上がりました。発表は各グループで作成したトークマップを使って、笑いあり、熱弁あり、当事者同士の協力あり、ホットな雰囲気の中で行われました。意思決定（支援）という新たな考え方をもとにグループで話し合われた内容は、それぞれの立場でリカバリーに向けた日々の苦悩や実践が共有されたものとなりました。ひとつの分科会で生み出された協働作業の一部をご覧ください。

## II. 進行状況

1. **参加者**：110名程度（当事者、家族、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、福祉施設職員など）
2. **進行**
  - 1) 当事者からの発言「入院体験からのリカバリーを語る」  
入院しながらも、医療スタッフの理解やサポートを得ながら、日々の楽しみや役割活動を続け生活を充実させていくことを体験。病院も日々の生活（リカバリー）を繋げて行く場、など
  - 2) 看護師からの発言「当事者とともにリカバリーする看護師」  
病院のヒエラルキーの中の看護師と当事者、当事者への支援をめぐって病院とのやり取り、教育の現場でリカバリー志向の養成教育を行うこと、など
  - 3) 作業療法士からの発言「作業療法のツールからみる当事者の意思決定支援」  
ADOC（作業選択意思決定支援ソフト）の概要説明、本人の希望に寄り添った事例のリカバリー、希望の意味・目的を知る、共有する、一緒に目標を立てる、など
  - 4) 8～10名程度のグループディスカッション  
テーマ：「医療の中でリカバリーを育てるには～当事者と専門職が共にできることはなんだろう？～」
  - 5) トークマップの作成

6)各グループの発表

7)まとめ

### Ⅲ. グループで発表された内容のまとめ

#### 1. リカバリー、リカバリー志向の支援

- ・リカバリーは「旅」「その人らしい生活を送る」「夢」「自己実現」「希望」「挑戦」
- ・働くことで自分の持っている力がアップ
- ・当事者だけでなく、家族もリカバリー
- ・支援者が本人を囲むというより、本人を先頭にしてリカバリーの前進を支援者が後ろから支えるイメージ(ロケットの絵にて図示)
- ・問題解決志向から夢・希望のものさしに転換
- ・本人主体の生活—病院も生活(リカバリー)を継続する場
- ・小さな希望や願いをかなえる—「望むことをやってみて、ダメだったら一緒に考えよう！」

#### 2. 意思決定支援、当事者と専門職との協働

- ・自己決定の尊重—自分で決めると後悔しにくい—自ら切り開く、行動するエネルギーになる
- ・夢や希望の共有—当事者とスタッフの気持ち、目標のズレが埋まる
- ・当事者とスタッフ—人と人との関わり・協働・信頼関係—それぞれのリカバリーにつながる
- ・信頼できるスタッフが1人でもいれば、気持ちを汲み取ってもらい、安心して前に進める。
- ・病院、専門職との連携、つながりを—当事者も医療現場にいる人と仲良くないと
- ・自分の居場所、リカバリーの場の理解が必要
- ・病院、デイケア、作業所での楽しみ—それを支える本人、家族、友達、スタッフ

#### 3. 仲間、人とのつながり

- ・ピアサポーターや仲間がいると次につながる—仲間、味方を増やすことが大切
- ・病院の中で、当事者同士が夢を語り合い、支え合っている
- ・色々な人とのつながり—癒し—本来もっている夢や希望を叶えやすくしている

#### 4. 専門職が職場でできること

- ・職場全体での共有—成功例をスタッフからスタッフに浸透させる草の根運動、チームの意識統一
- ・時間はかかるけど、やっぱり患者さんの本当の希望、思い、声を聴く
- ・これまでのルールやタブーを打ち破る、スタッフの古くからの型、価値観をなくす
- ・スタッフも希望をもつ、風通しを良くする
- ・スタッフ同士の信頼関係
- ・医療、地域の連携—地域での生活を想定する
- ・地域との顔の見える関係—地域の資源との関わりをもつ(知る機会を作る)

#### 5. その他

- ・これまで誰にも言えなかったことを今回のグループで話せたことがリカバリーとなった、と語る当事者の方がおられた
- ・リカバリーフォーラムそのものが大切、地域大会ができれば、という希望があった